

第5回 介護職員初任者研修 募集案内

地域で活躍できる介護職員を養成する目的で、「介護職員初任者研修」を下記のとおり開催いたします。介護に必要な基礎知識を学び、介護技術を修得していただく研修です。受講を希望される方は、5月9日(火)までにお申込みください。

日 時	2017年5月30日(火)～9月20日(水) 25日間(午前9時～午後4時30分)
内 容	講義・演習を含め、130時間の研修です。 なお、1時間程度の修了試験があります。
受 講 料	55,000円(消費税込み、テキスト代含む)
定 員	30名(10名未満の場合は中止いたします)
申込締切	5月9日(火)
申込方法	①履歴書(市販 B4サイズ、写真貼付)、②返信用封筒(82円切手貼付、宛先記入)の2点を下記宛先までご郵送ください。 宛先 〒296-8602 鴨川市東町929 亀田総合病院 継続学習センター
選考方法	書類選考及び面接審査(追ってご案内いたします)
問合わせ	月～金 午前9時～午後5時 TEL:04-7099-1165(直通)

亀田ニュースがカラーになりました

いつも「亀田ニュース」をお手に取っていただき、ありがとうございます。

さらに読んでいただける広報紙をめざして、今号よりデザインを一部リニューアルし、全ページカラーといたしました。今後も皆さまのお役に立つ情報の発信に努めてまいりたいと思いますので、お気づきの点等ございましたら、ぜひご意見をお聞かせください。

また、先月より「亀田総合病院報(Kameda)」(隔月発行)がホームページからご覧いただけるようになりました。当院の取り組みなど「亀田ニュース」では紹介しきれない情報を掲載しておりますので、こちらもどうぞご覧ください。(http://www.kameda.com/ja/general/about/magazine/index.html)

bayfm「MEDICAL UPDATES」

ベイエフエムの午後のワイド番組『it!! (イット)』では、毎週火曜日午後3時すぎから、当院のスタッフが出演する「MEDICAL UPDATES」のコーナー(約10分)が好評放送中です。

4月は滝口智子脳卒中リハビリ認定看護師が出演します。

地域連携小児夜間・休日診療について

当院では地域の小児科の先生と連携をとり、夜間や休日で小児の急病の場合に、常時診療可能な体制を整えています。

受診される際は、事前に代表番号(04-7092-2211)まで電話連絡をお願いいたします。

<診療>・月曜～金曜 午後6時～午前8時
・土曜 正午～午前0時
・休日

便失禁に対する無料電話相談

便失禁でお悩みの方に治療法を含む適切な情報を提供する目的で、毎月、専門医による無料電話相談を実施しております。

■日時:4月12日(水)、26日(水)午後2時～4時
■電話番号:04-7099-1206
■対応者:角田明良医師または高橋知子医師



青山フラワーマーケット 母の日ギフト 早期ご予約受付中

今年の母の日は5月14日(日)です。日頃の感謝の気持ちを込めて、お花をプレゼントしてみたいかですか？



亀田クリニック1階の青山フラワーマーケットでは、花びんいらずでそのまま飾れるアレンジメントのほか、ブーケやアジサイ・カーネーションの花鉢など、母の日アイテムのご予約を受け付けております。地方発送も行っておりますので、詳しくはスタッフまで気軽にお訪ねください。

なお、母の日当日はKタワー1階にて臨時営業いたします。(午前9時～午後5時)。4月22日(土)までに税込3,240円以上の母の日商品をお申し込みのお客さまには、その場でバラ一輪をプレゼントいたします。この機会にどうぞご利用ください。

腎移植について

腎移植科 越智敦彦

第3話 「腎移植と免疫」

腎移植では腎臓がはたらかなくなった末期腎不全の患者さま（レシピエント）に他人（ドナー）からの腎臓を移植します。ドナーの腎臓は移植を受けるレシピエントにとっては自分のものではない異物です。人には、からだの中に入ってきた異物（例えば細菌やウイルスなど）を排除しようとする「免疫^{めんえき}」という機能が備わっています。では異物となる他人の腎臓を移植しても問題ないのでしょうか。第3話ではこの免疫と腎移植のしくみについてお話していきます。

【免疫を担当する血液中の白血球】

人の血液の中には免疫を担当する白血球という細胞が存在します。白血球は好中球、単球（マクロファージ）、リンパ球などに分けられ、それぞれ役割は異なります。

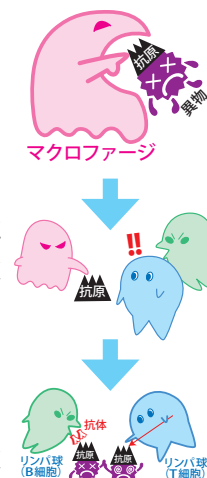
このうちマクロファージはからだの中に入ってきた異物を取り込み、その“特徴”をリンパ球に教えることができます。この“特徴”は「抗原^{こうげん}」といわれ、マクロファージがリンパ球に抗原を教えることを「抗原提示^{こうげんていじ}」といいます。リンパ球は抗原提示された異物の抗原を認識して、からだの中に入ってきた同じ抗原をもつ異物を攻撃します。この異物に対する認識はリンパ球に記憶され、その後同じ異物を感知するとすぐに攻撃できるようになります。このしくみを利用したものがワクチンです。自分自身の抗原は異物とは認識されません。

リンパ球には異物と認識したものに対して直接異物を攻撃するT細胞と、抗原を標的とする「抗体^{こうたい}」をつくりそれで異物を攻撃するB細胞があります。

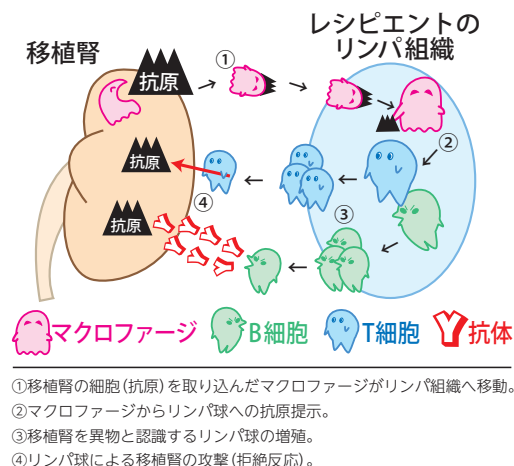
【腎移植における免疫】

腎移植において異物であるドナーの腎臓に対してレシピエントの免疫はどのようにはたらくのでしょうか。

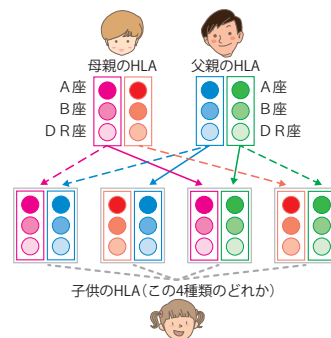
移植した腎臓の細胞をマクロファージが取り込みリンパ



組織というリンパ球の工場に移動し、そこでリンパ球に抗原提示します。リンパ球はその抗原を異物として認識し、排除するため増殖しリンパ組織から移植腎へ出動します。リンパ球のT細胞は直接に、B細胞は抗体で移植腎を攻撃します。これを「拒絶反応^{きぜつはんおう}」といいます。



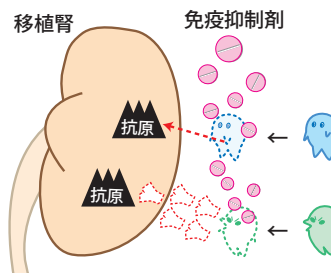
移植腎に存在する抗原で免疫からの攻撃対象となるもののひとつにヒト白血球抗原 (HLA) というものがあります。HLAは白血球と名前がつけられていますが、人のからだのほとんど全ての細胞に現れる抗原だと判明しています。HLAにはいくつか種類があり、腎移植で重要なHLAはA, B, DRと呼ばれる3種類があります。それぞれ2つの遺伝子型からできており、父親と母親より半分ずつを受け継ぐため、親子間でもHLAは完全に一致しません。



【腎移植と免疫抑制剤】

自分と異なるHLAをもつドナーの腎臓を移植した場合、レシピエントの免疫は異物と認識して攻撃します。この拒絶反応が起こると移植した腎臓がはたらきを失ってしまいます。そこで免疫のはたらきをおさえるための薬である免疫抑制剤^{めんえきよくせいざい}を使用することにより、移植した腎臓を守ることが可能となります。

第4話では血液型が異なる場合の腎移植についてお話していきたいと思っています。



医師紹介 瀬尾 百合子 医師

- ①担当科目
- ②診療における得意分野
- ③趣味
- ④ひと言



- ①産婦人科
- ②産婦人科
- ③旅行、テニス
- ④明るく元気に頑張ります



Kameda Medical Center

亀田ホームページ <http://www.kameda.com>